

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価 (3月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>○複眼的多面的なものを見て、深く思考し、論理的で批評力・判断力・洞察力・行動力に富む生徒を育む教育課程に整備する。</p> <p>○高度で知的好奇心を刺激する授業を教員・生徒の相互で作り上げるために、組織的な授業改善を推進する。</p> <p>○各教科及び総合的な学習の時間の取組みを通して、歴史文化への造詣を深め、また、課題設定・解決力・表現力を育む。</p>	<p>①学力向上進学重点校エントリー校として具体的な評価視点・水準を確認し効果的なカリキュラムの検討を実施する。</p> <p>②グローバル教育研究推進校として生徒に習得させる基準を確認し効果的な計画を策定する。また実施可能なものから随時導入を図る。</p> <p>③2学期制の長所を活かした年間行事予定の見直しを図り学校行事の教育課程上の位置づけを明確にする。</p> <p>④組織的な授業改善に係る年間計画を策定し実行可能なものから随時導入を図る。</p>	<p>①ワーキンググループを発足させ具体的な計画を策定する。生徒の進路希望を実現するために、29年度入学生のカリキュラム構築を検討する。</p> <p>②英語資格認定試験の試験的導入を試みる。オーストラリア交流事業が、参加生徒を通じてグローバル教育の機会となる方策を検討する。</p> <p>③前期期末試験の実施時期やクラス編成のあり方を検討する。</p> <p>④授業改善を目的とした教科会を行い、教科での取組みを検討する。</p>	<p>①ワーキンググループによる具体的な計画策定がなされたか。</p> <p>②英語資格認定試験の導入をすることができたか。</p> <p>③効果的な年間行事計画が策定できたか。</p> <p>④授業改善を目的とする教科会を開けたか。</p> <p>教科会で情報交換を基に教科としての取組みを検討することができたか。</p>	<p>①WGによる平成29年度入学生からのカリキュラムが改定され、生徒の進路実現に向けて全職員で認識を共有した。</p> <p>②GTEC1、2学年全員受験を決定し、8/30に実施した。豪州交流事業は20名の生徒が参加し、担当教員の指導の下、素晴らしい成果をあげた。参加生徒たちを主体として、即興型英語ディベート大会やスピーチコンテストの取組みを実施した。また、県のリレート州派遣事業にも生徒1名が選ばれて参加した。12/25には本校において当地域内研究指定校が一同に会し、生徒の学習成果発表会、教員の研究成果発表会が行われ、充実した発表を行った。</p> <p>③2学期制の利点を生かすべく、前期期末試験実施時期を夏季休業明けとし、それに伴う年間行事計画の適切な配置を検討した。</p> <p>④受験指導をより精密に実施するため、各学年の選択希望調査結果を受けて、2、3年生の文理分け、レクソン制の来年度実施の具体的な検討を継続している。</p> <p>④組織的な授業改善に係る年間計画を策定し、次年度の実施に向けた準備を整えた。</p>	<p>①生徒の進路実現のためには、カリキュラムの継続的な改定を行っていく必要がある。また、新カリキュラムへの移行を5年後に控え、さらなるカリキュラムの検討が必要である。</p> <p>②GTEC受験については、英語力の向上に直結し、生徒の学習意欲向上に役立った。3年生の受験利用も考慮し次年度は全学年で実施することとした。</p> <p>②交流事業に参加を希望する生徒全員に機会を与えたいが現状では難しいため、別の観点からも新たな企画を立て生徒の積極的な要望に応じることとした。次年度は夏季休業中に海外留学研修をカナダで実施する計画である。</p> <p>③より適切な年間行事予定の策定に向けて、行事の見直しを継続して行っていく必要がある。</p> <p>④組織的な授業改善に向けて職員全体の共通理解を図る。</p>	<p>①理数系に配慮したカリキュラム改訂は評価できる。</p> <p>①カリキュラム改訂に際しては改善の視点をどこに置くのか、つまり、生徒を通しての課題か、教員側の意識改革なのか中止することが肝要であろう</p> <p>②英語力向上に向けてGTEC受験導入等の強化策は評価できる。さらに、TOEFL、TOEICなどの外部機関試験も経験させたい。</p> <p>②英語の資格試験導入に際してはできる限り大学入試や一般社会における認知度の高い機関を受け入れたい。</p> <p>②国際交流の楽しさ、英語の必要性をより多くの生徒が理解できるきっかけとして、さらに発展させていきたい。さらに、海外交流事業やディベート参加等の英語力向上については是非継続願いたい。</p> <p>②グローバル教育は選抜された生徒を通して全生徒に対する効果的な教育の展開を思考したい。</p>	<p>①国公立大学進学志望者の学習達成度を高めるため、平成29年度入学生に向けてカリキュラム改定を行い、1年次からの理数系科目の履修を必須化した。</p> <p>②GTEC導入がグローバル教育研究推進校としての取組みに奏功した。来年度の全校実施に向けて県との円滑な事務遂行を課題とする。</p> <p>②豪州交流事業は担当教員の指導の下、素晴らしい成果をあげた。また、その参加生徒たちを主体として、英語ディベート大会やスピーチコンテストの取組みを実施し、成果を挙げた。</p> <p>③学力向上進学重点校エントリー校の取組みとして、2学期制の利点を生かすために、前期期末試験実施時期を夏季休業明けとし、それに伴う年間行事計画の適切な配置を検討した。</p> <p>④授業改善に向けた教員間の相互授業観察の実施を決定した。</p>	<p>①理数科目の早期履修に伴い、文系科目の履修を現行よりも減じる必要が生じ、総合的な学力の水準をどう維持、向上させられるかが検討課題となる。</p> <p>②グローバル教育研究推進校としての取組みの一つの柱としてのGTECの継続的実施に向けて、県ときめ細かな連絡及び事務遂行に努める。</p> <p>③学校行事を重視する伝統意識に基づき、クラス分けに当たっては文理分けを実施してこなかったことから、大きな編成替えがもたらす課題については経年観察が必要。</p> <p>④教科横断的な取組みの一層の活性化を検討する必要がある。</p>
2 生徒指導・支援	<p>○社会性・協調性・体力・行動力・自己管理能力や人権意識を養うために多様な経験をさせ、生徒が意欲的・主体的に人間形成を行うことができる環境を整える。</p> <p>○一人ひとりの個に応じた支援を充実させる。</p>	<p>①生徒の自己有用感を醸成する効果的な学校行事の活用を図る。</p> <p>②一人ひとりの生徒状況を把握するための組織的な情報共有機会を設定する。</p> <p>③生徒の人権意識を涵養するための効果的な支援の工夫を行う。</p> <p>④藤沢養護学校分教室との交流を行う。</p>	<p>①生徒一人ひとりが行事における自己の役割を理解し協調性を持って取組めるような支援方法の工夫を図る。</p> <p>②課題を抱える生徒の情報共有と組織的な支援を図る。</p> <p>③SNSに関わるトラブル未然防止LGBTへの理解等人権を意識させるような機会を設定する。</p> <p>④分教室と授業や行事などを通して互いの理解を深める。</p>	<p>①行事の過程や終了後に生徒たちの自己有用感は高まったか。</p> <p>②定期的な生徒の情報共有が実施されたか。</p> <p>③生徒の人権意識を高める機会が設定できたか。</p> <p>④分教室と交流し協力関係を持てたか。</p>	<p>①「青春偏差値日本一」という生徒会が広めたキャッチフレーズを全生徒が好意的に受け止め、身の有用感を一層高めることに繋がった。</p> <p>②4・12月に生徒情報交換会を行い、全職員で情報を共有した。</p> <p>③4・9月登校時に江ノ電乗車指導を近隣高校の職員と連携して行い、10月には通学路登校指導を実施した。他者への配慮、整列乗車、車内マナーおよび歩行マナーも概ね良好であった。</p>	<p>①生徒が経験する受動的感動、能動的感動の機会をいかに多く確保するか、準備も含め、常に様々な情報収集が必要となる。</p> <p>③乗車マナーや歩行マナーに関しては他者への配慮を欠くことのない深い人権意識が求められることを、全校集会や学年集会及びHRで引き続き生徒に喚起する行動をとるよう継続して指導する。</p>	<p>②市学警連では機会があるが、中高連携という視点で生徒指導の現状を情報共有できるとよい。</p> <p>②課題を持つ生徒の現状と対応策については十分理解できる。</p> <p>③マナーの育成は行動面だけでなく意識面の改革・修正が求められている。活発な意見交換の場づくりを創造したい。</p> <p>③現在近隣住民から苦情は特に来ていないようだが、暗くなってから走って駅に向かう生徒の様子が高齢の歩行者との衝突等の不安がある。</p> <p>④分教室の共同活動は十分にできている。</p>	<p>②生徒情報共有に関する会議を状況に応じて開催した。必要な時期及び緊急時の対応について、学年間だけでなく外部機関とも連携をとりつつ実施できた。</p> <p>また、数回にわたり実施したが、その都度前回の内容を踏まえて継続的に行った。</p> <p>④6月の合唱祭では分教室も参加し、実行委員と協力して運営を行った。また、9月の体育祭では分教室も学年リレーに参加し、伝統行事の一端に触れる体験に繋がった。</p>	<p>②生徒および教員間の連携を図り、生徒の情報収集を適宜行うことで状況に応じた対応策を共有し、よりきめ細やかな対応を進める。各学期の最初に職員全体で生徒情報交換会を行い、生徒の状況を把握する。</p> <p>④各行事での教職員の連携は充実してきたが、生徒同士の交流をさらに進めて相互理解を深めていきたい。行事以外でも生徒会活動などで協働できるものがあるか検討が必要である。</p>

3	進路指導・支援	○難関国公立大学・難関私立大学への合格者数を増加させる。	①生徒一人ひとりがグローバルな視点をもち高い目標を掲げ最後まで挑戦を継続できるような支援体制を確立する。 ②「総合的な学習の時間」やLHRの効果的な活用によるきめ細やかなキャリア支援体制を構築する。	①グローバルな視点を育む学習機会を設定する。難関国公立大学進学希望が増えるようなキャリア支援の工夫とカリキュラムの改定を行う。生徒の自己肯定感が醸成できるような学校行事への効果的な参加を促す工夫と受験は団体戦であるという意識付けを促す。 ②3年間をトータルで意識したキャリア支援の内容を検討する。受験科目の多さが苦にならないよう国公立大学の魅力を伝える。	①グローバルな視点を涵養する学習機会を設定できたか。効果的なカリキュラム改定がなされたか。その結果として国公立大学受験者が増加したか。 3学年縦割り行事等を効果的に活用して自己有用感が育まれ団体戦の意識が高まったか。 ②3年間を見越したキャリア支援の検討は図れたか。	①これまで継続していた姉妹校交流事業に加え、スタディーサポート(学状況リサーチ)および学習GTECと実力テスト(模擬試験)を実施することにより、生徒の学習到達度や学習状況を定期的に把握した。それぞれの学習指導や面接指導に役立てつつ、職員研修を定期的に行なった。 ①国公立大学進学志望者の学習達成度を高めるため、1年次からの理数系科目の履修を必須化した。 ②休業中を中心に、生徒のニーズに合わせた多様な講座を開設し、参加を促すことができた。	①GTECや実力テスト(模擬試験)の結果を学校全体・職員全体で共有化することを確認し、一層の学習指導へ役立てる必要がある。過年度生の情報も各担任へ提供し、日ごろの学習状態の把握に役立て、過年度生へのフォローも充実させる。実力テストや模擬試験の精選を図り、その結果データを学習指導・面接指導に活かす。 ②早期に生徒のニーズに応じた開講講座を設定し、生徒の積極的参加を促せるように努める。	①学力向上進学重点校エントリート校として、難関大学への合格者数増加に向けて職員全体で対策を講じている。 ①生徒の個性に応じた個別進路指導を効果的手法で実施して結果を出していることが評価できる。 ②生徒、保護者に対して、早い時期から進路を意識する取組みを継続的に行うことが必要だろう。 ②講座を設置し、成果を上げていくことは大いに評価できる。参加生徒数の記載は必要。	①センター試験に際し、実力を存分に発揮できる体制づくりのため、12月の科目ごとの演習に加え、1月に本番同様の時間割でマーク型の模擬演習講座を設置した。 ①以前から要望が多かった自習室について、次年度4月から稼働できるように整備を進めた。 ②本校卒業生による大学紹介や、大学の先生を招いての説明会を行い、生徒が将来の展望を具体化するための機会とした。 ②3年生対象の進路講演会は実現したが、1、2年生対象の講演会は見送られた。次年度の実現に向けて、検討したい。	①直前のセンター演習に関して参加者がやや少なかったため、時期と生徒への呼びかけ方法を改善する。 ①新たに設置した自習室に関して、生徒用机が15台のみで、数が十分確保できていないため、より多くの生徒が利用できるような工夫していきたい。 ②グローバル教育推進校の企画と連携し、本校の特色に沿った人選を行い、学校や地域や国などの枠を超えた広い視野を持てるような講演会を企画していく。
4	地域等との協働	○保護者・地域・大学・分教室との連携・協働による教育を推進する。	①地域・保護者等と連携した生徒主体の活動を支援する。 ②地域に理解される貢献活動を実施する。 ③「かまくら学」やキャリア教育等での高大連携を構築する。 ④藤沢養護学校分教室との交流を行う。(再掲)	①「かまくら学」を軸にした地域との協働による体験活動のさらなる充実と生徒のプレゼンテーション能力の向上を目指す。 ②環境に関する関係団体との連携を図り協力体制を構築する。 ③「かまくら学」における大学との連携を図る。キャリア教育における高大連携を図る。 ④分教室と授業や行事などを通して互いの理解を深める。(再掲)	①生徒の積極参加を促す地域との協働メニュー提示が効果的になされたか。 ②かながわ海岸美化財団と協力体制を築き海岸清掃が効果的に実施されたか。 ③「かまくら学」やキャリア教育を進める上で大学との連携を図れたか。 ④分教室と交流し協力関係を持てたか。(再掲)	①②1学年の「総合的な学習の時間」を中心に、講演会、研究テーマ発表会などを通じて「鎌倉」への理解は十分深まったと考えられる。また、「協働メニュー」には1年生全員が参加し、地域と交流し、市民活動について学ぶことができた。 ③「かまくら学」講演会に大学教授や鎌倉に関する専門家を招聘し、有意義な講演を生徒に提供できた。 ③進路講演会として、20を超える大学を招き、生徒に向けて貴重な情報提供の機会を設けた。	①②「かまくら学」について、学校全体としてより一層の取組みと職員の理解が必要と思われる。 ③「かまくら学」への取組みをキャリア教育への一つの足がかりとして、さらにより良いプログラムの検討に着手すること。 ③各大学と継続的な連携を図り、時宜に応じた情報提供を着実に実施したい。	①「かまくら学」は是非継続して頂きたい取組みである。レポートの書き方の練習となる指導を希望。 ①「かまくら学」を学校全体で取り組んでいることには地域住民として感謝している。 ①特色としての「かまくら学」は中学生にも参観させたい内容である。 ②地域の老人ホームと交流している部活動があり地域貢献として評価できる。 ③「かまくら学」を通して「自地域」を学習することは必要である一方、「地域学」の視点からは歴史教育に偏ることのない指導が求められる。	①②1年生は「かまくら学」の協働メニューとして地域の方々と協力してボランティア活動や清掃活動を行った。 ③「かまくら学」講演会に大学教授や鎌倉に関する専門家を招聘し、有意義な講演を生徒に提供できた。 ④6月の合唱祭では分教室も参加し、実行委員と協力して運営を行った。また、9月の体育祭では分教室も学年リレーに参加し、伝統行事の一端に触れる体験に繋がった。(再掲)	①②2、3年生は地域貢献デーとして、海岸清掃及び近隣地域の公園や道路の清掃を行った。なお、海岸清掃に関しては「かながわ海岸美化財団」の方々の協力を得ることができた。 ①②協働メニューについては、対象となる企画を早めに検討して生徒に示し、地域活動の充実と生徒が参加しやすいものを追求する。海岸清掃や近隣地域の清掃活動をさらに充実させ、地域住民に信頼されるよう努める。
5	学校管理 学校運営	○すべての職員が一丸となって学校改革に臨み、魅力ある学校づくりに組織的に取り組む。	①事故・不祥事0件の継続のためOJTサポートのさらなる充実を図る。 ②学校目標を共有しその達成に向けて学年・グループで協同して取り組む方法を構築する。 ③授業改善・指導力向上に向け情報交換の場を設定する。 ④職員・生徒が一体となって防災意識の涵養を図る。 ⑤ホームページで学校の情報を発信する。	①効果的な研修会の実施とOJTサポート状況の点検方法を構築する。グループを主体とした事故防止会議の計画的な実施を図る。私費会計の適正な執行を図る。 ②学年・グループで学校目標達成を意識した会議時間を確保する。 ③定期的な授業改善・指導力向上のための授業互観の機会や研修会を企画する。 ④様々な状況を想定した避難訓練を実施し、DIG訓練を工夫する。 ⑤閲覧しやすい防災マニュアルの見直しと職員・生徒の共有化を図る。 ⑤閲覧しやすいホームページに改定する。情報を随時更新する。	①時宜に適した効果的な研修会が開けたか。定期的な点検方法が構築できたか。各グループが主体的に事故防止会議を実施したか。私費会計の執行が適正に実施されたか。 ②毎週の学年会・グループ会議において定期的に学校目標達成に向けての情報共有はできたか。 ③教員同士の情報交換を含め効果的な授業互観や研修会が実施できたか。 ④特に地震・津波を意識した訓練の実施とDIG訓練の定着が図れたか。 生徒にとっても理解しやすいマニュアルの見直しが図れたか。 ⑤閲覧しやすいHP改定が実施できたか。時宜に応じた情報更新が実施されたか。	①外部講師を招いて、全員参加による事故防止研修会を行う計画を立案した。また、日常の中でもOJTをサポートし、職務を遂行できるようにした。 ②学年会・グループ会議は固定した曜日開催を実施できている。職員間の情報交換・情報共有も確実に実施できた。 ③相互授業見学の期間を設定し、授業改善・指導力向上の一助となるよう位置づけた。 ④避難訓練の実施時に、昨年に引き続いてDIG訓練を導入し、生徒および職員の意識を深めることができた。 ⑤閲覧しやすいHPに改訂することができた。	①今後も継続的に研修会を行いOJTを推進する。 ②授業時間確保等に伴い年間行事等を見直すにあたり、各グループを横断する組織が必要か。 ③教科内の研究協議にとどまらず、全体会を設定して情報共有を図る場の設定が必要である。 ④DIG訓練については、さらに充実できるように改革を図るとともに、各回の避難訓練内容を工夫することが必要である。 ⑤トップページが見やすいものに改訂できた一方、専門的に改訂できるスキルを持つ職員の配置に課題がある。	①事故・不祥事0件は大いに評価できる。研修等の活動が功を奏している。 ①全国的かつ今日的な案件にも対応できている。 ④学校が置かれている環境を十分に理解した上で具体的な対応策が十分に取られている。 ④地震、津波対策として生徒の安全を考えることが第一である。さらに避難所としての機能を担っているのに、避難所運営について学ぶことも必要。 ④DIG訓練を取り入れ避難訓練の意識が高められ防災マニュアルの改訂を行ったことを高く評価する。 ④DIGのために効果的な大縮尺の地図を生徒・教員・住民が協働で作成したい。 ⑤PTAとのより一層の連携を希望。	①OJTを推進し、事故・不祥事0件を堅持した。 ③相互授業見学の期間を設定し、授業改善・指導力向上の一助となるよう位置づけた。 ④防災マニュアルの見直し改訂を行い、職員へ周知した。緊急時の生徒の行動については津波等の対応を徹底した。学校評議員会を通じて地域との連携について検討し、災害時対応物品の充実を図った。また、鎌倉市防災課と協定を締結し、MCA無線を配備した。 ⑤ホームページを全面的に更新し、より見やすい体裁を整えた。また、生徒活動の様子を時宜に応じて掲載することができた。担当者確保に課題あり。	③組織的な授業改善に向けて相互互観授業の必要性について全職員で一層の共通理解を形成する。 ④実際の災害を想定した初期対応について確実に行動できるよう生徒職員に周知するとともに、備品配備の方法を検討し活用を図る。地域連携を意識した校内備品の新たな整備を図る。 ⑤PTAや同窓会とのより一層の相互連携や、生徒向けに有用な受験情報等が得られるリンク先の提供等を検討したい。 ⑤ホームページの更新については担当グループ全員で担当更新に当たり、スキルを共有する。